

2013年度 さわやか福祉財団 交流総会フォーラム



2014年2月18日(火曜日)

第一部 さわやか総会

東京・両国 KFC HALL

第二部 さわやか交流会

第一ホテル両国

プログラム

第1部 さわやか総会 会場: KFC HALL

午後1時～

- 開会
- 講演 さわやか福祉財団理事長 堀田 力
- さわやか福祉財団の事業と運営 事務局長 清水 肇子
- 東日本大震災 支援地域の皆さんから 財団の担当リーダー、さわやかインストラクターも登場します!
- 財団担当リーダー・自治体研修生の紹介

休憩10分

午後2時40分頃 **特別トーク**

「ふれあい・いきがいと新しい地域支え合いの仕組み」
 パネリスト: さわやかインストラクター 及び 地域活動者
 進行 後: 堀田 力

午後4時10分頃 第1部 終了予定

アンケートにご協力ください
 なお、第2部は、会場が変わります。第2部ご出席の皆様は、エスカレーターで5階（第一ホテル両国「清澄」）へお移りください。

休 憩

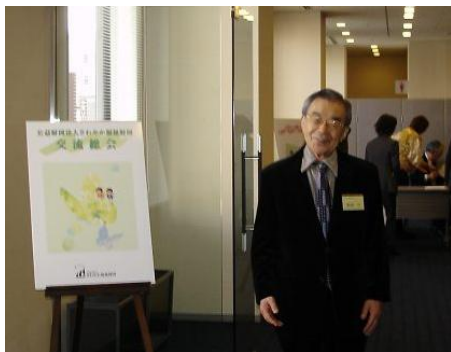
第2部 さわやか交流会 会場: 第一ホテル両国5階「清澄」

午後4時30分～

- 開会
- 乾杯 企業・行政関係者の方々をはじめ、NPO・ボランティア活動に深いご理解とご支援を寄せてくださる皆様をご紹介します。
- 自由交流

午後5時50分 第2部 終了予定

「さわやか福祉財団交流総会フォーラム」は、「新しいふれあい社会づくり」をめざす財団の全国の仲間が一堂に会して、広く情報を交換し、交流をする場として毎年開催されている。第一部は、講演、復興支援地域からの報告、特別トーク「ふれあい・生きがいと新しい地域支え合いの仕組み」(午後1時～4時10分・無料)。第二部は、自由・交流パーティーが開かれた。(4時30分～5時50分・運営協力2000円)



会場入り口で来場者を迎えてあいさつする
堀田力理事長

◎基調講演 堀田力理事長の講演から

さわやか財団としての活動は、昨年23年度もほぼ8割がたは被災地東日本大震災の復興応援に費やしてきました。全国のインストラクターの皆様に被災地に入っただき、被災地の方々の苦勞がすこしでも減るようにとがんばっていただいた。感謝しております。



被災地以外での活動について、これからは大きな節目の転換点なので、そちらにも全国のインストラクターの方々といっしょに取り組んでいきたい。さわやか財団の活動を始めて22年になりますけれど、これからは三つ目のステージにかかる時かなと認識しております。

最初のステージは1990年代。まだ介護保険もなかった時代に、なんとか助け合いを広げたいということで、「新しいふれあい社会の創造」という旗じるしで、地域で助け合う活動をしよう、そういう団体をつくろう、ということで力をそそいできた時期です。われわれの力だけではとても無理というので、基本のところは国の制度で支えてほしいということで要請をし、介護保険制度を実現してきました。

介護保険制度が2000年にスタート、それから今日までが第二ステージ。介護保険のサービスとも連携して心・ふれあい・生きがいの活動のネットワークづくりをすすめた。

いま第三のステージ。そういった活動が「地域」をベースとしてすべての人を包み込んで展開できるようにするのが三つ目のステージ。国の財政がきびしいなかで高齢化が進み、支援すべき方々がふえている。そういうなかで負担がふえないようにし、一方ではサービスが後退しないようにする。その両方を達成するには、地域でわれわれがエネルギーを出しみんなで助け合うこと。生きていることが楽しいと実感できるような地域にするためがんばる。国の政策も地域の力を活かして支え合える方向にむかっています。

「要支援者」の支援は、介護保険ではなく市町村の責任でおこなうことになりましたが、市町村が事業者をお願いするのではなんの進歩もない。地域の力を出して支えていくしくみにしないと後退になってしまう。これは高齢者だけの問題ではありません。

子どもたちについても、「子ども子育て支援」で幼稚園と保育園の一体化、親と子だけでなく地域の力を活かして全体で子育てをしようということに。障害者についても施設から地域へ自宅へという方向が打ち出されて「障害者総合支援法」に。また生活困窮者には「生活困窮者自立支援法」が成立しました。行政が窓口をつくり、われわれみんなが地域の力を出し合うこと。地域の団体とネットワークを組んで、全国の地域づくりに取り組む最初の年になる、みんなでがんばっていききたい。 [文責・堀内]



◎さわやか福祉財団の事業と運営 事務局長 清水肇子

◎東日本大震災 支援地域の皆さんから 報告



岩手県大槌町



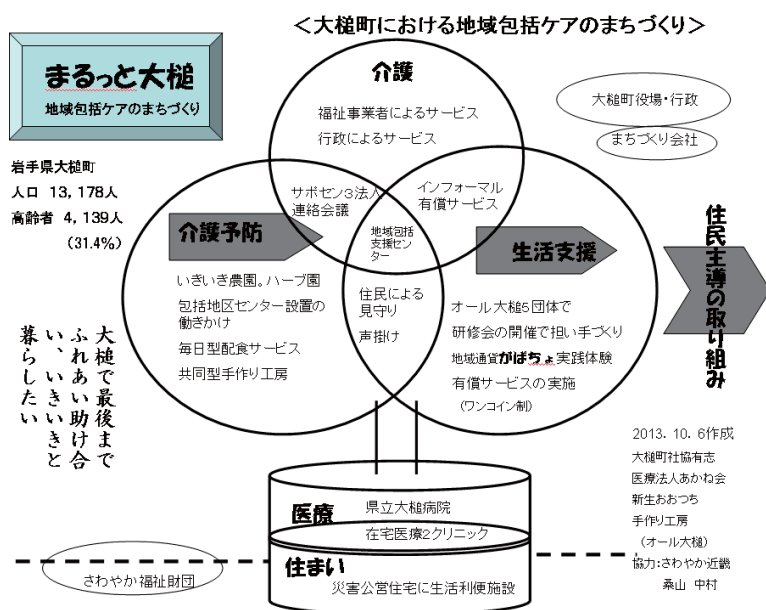
岩手県大船渡市

2011年3月11日からほどなく3年、その間のさわやか福祉財団のインストラクターによる被災地の現場での支援、「地域包括ケアのあるまちづくり」の導入、「復興地域通貨」の利用などについて、各地から現状報告と感謝が伝えられた。

岩手県大槌町 大船渡市 岩手県南三陸町 石巻市 釜石市 塩釜市 宮城県山元町など。

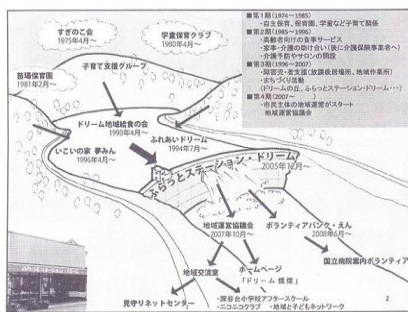
「地域包括ケアのあるまちづくり」 住み慣れた地域で支え合い、安心して暮らせるまちづくりのコンセプトで、災害のあとと将来のまちづくりをめざしてすすめられている。住民はもとより、県の担当者、首長、復興・福祉行政担当者、仮設住宅自治会代表者などの理解と協力のもとで、「地域包括ケア」のまちづくりの先進的事例として注目されている。

「復興応援地域通貨」は、財団に寄せられた寄付金を利用して発行するもので、被災地での買い物、車での送迎、さまざまな生活支援の場でやりとりされている。各地でそれぞれ「がばちょ」（大槌町）、「カメラリア」（大船渡市）、「笑」（南三陸町）。「どうも」（釜石市）など、いろいろな名前をつけて利用されている。



特別トーク「ふれあい・いきがいと新しい地域支え合いの仕組み」

進行係 堀田理事長・・・・・・・・



「町内福祉村」ってなんですか？ ～ お互いに助け合い、支えあう地域づくり ～

「話し相手がいらない」「子育てや介護に手を貸して欲しい」「ボランティアをしたいがきっかけがない」etc.....
地域で安心して生き生きと暮らしているためには、身近なところでお互いに助け合い、支えあう地域づくりが必要です。
この「地域で支えあうしくず」を地域に住む皆さんが主体となって創りあげていく、それが「町内福祉村」です。

町内福祉村では、どんな活動をしているの？

町内福祉村では、「身近な生活支援活動」と「ふれあい交流活動」を2本の柱として、それぞれの地区の状況に合った活動をしています。
活動のメニューやマニュアルは、地域のみなさんが話し合いを重ね、その地区独自のものを創っています。

身近な生活支援活動
○ 地区内に住む誰かを必要としている人を対象に行う、ちよとしたボランティアです。

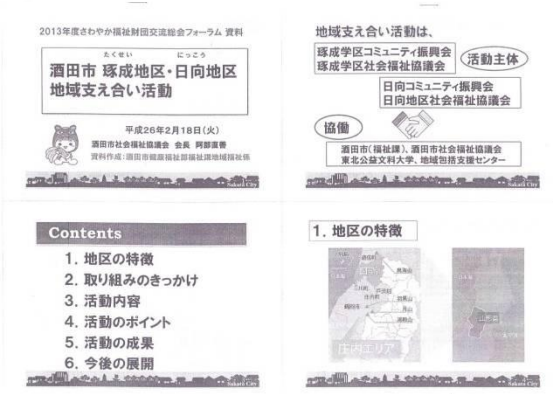


ふれあい交流活動
○ 地域の皆さんが気軽に立ち寄れる「たまり場」として、町内福祉村の施設や自治会館などを利用して、お茶やお話を楽しみながら過ごしています。
また子育て支援や子どもと高齢者の交流など様々な活動を行っています。



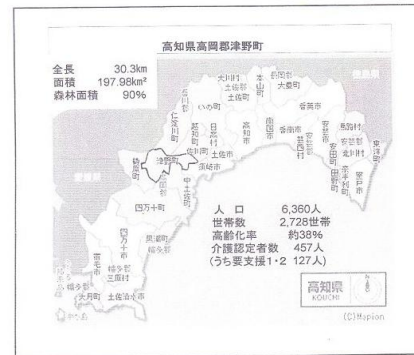
報告 横浜市 島津禮子さん
NPO ふらっとステーション・ドリーム
副理事長

報告 平塚市 野川義雄さん
平塚市金田福祉村コーディネーター



報告 酒田市 阿部直善さん
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長

報告 徳島市 麻野信子さん
NPO さわやか徳島理事長



報告 袋井市 稲葉ゆり子さん
NPO たすけあい遠州理事長

報告 高知県津野町 西元和代さん
地域の応援隊 和(なごみ) 代表



特別トーク パネリストのご紹介 (抜粋)

麻野 信子 NPO 法人さわやか徳島理事長
1983年徳島県生まれ。徳島ボランティア「アースマン・チーム」で活動。2002年「さわやか徳島」を創設。徳島県議会議員、徳島県議会議員選挙で当選。2004年「さわやか徳島」を創設。2004年「さわやか徳島」を創設。2004年「さわやか徳島」を創設。

阿部 直希 社会福祉法人高知福祉協議会理事長
1978年高知県生まれ。下志布野市議会議員。2013年「さわやか徳島」を創設。2013年「さわやか徳島」を創設。2013年「さわやか徳島」を創設。

稲葉 ゆり子 NPO 法人たすけあい遠州理事長
1952年徳島県生まれ。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。

島津 禮子 NPO 法人ふらっとスノーシュー・ドリーマー理事長
1974年徳島県生まれ。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。

西元 和代 地域の応援隊 和(なごみ) 代表
1970年高知県生まれ。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。

野川 義雄 高知県議会議員
1970年高知県生まれ。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。2002年「さわやか徳島」を創設。

第2部「さわやか交流会」は4時30分～5時50分 第一ホテル両国でおこなわれました。